

生後1日から、 一生涯にわたる モニタリング。



Age
1 Day

Health Index
84



Lactation

2

DIM

1

Daily Rumination

256

Health Index

82



センスハブ™ デイリー - すべての発育ステージをモニタリング -



日々の牛群管理に、ご負担を感じていませんか？

人手不足が進む中、限られた人員で牛群全体の生産性を維持・向上させることがこれまで以上に難しくなっています。



将来の繁殖能力を左右
する子牛期の飼養管理

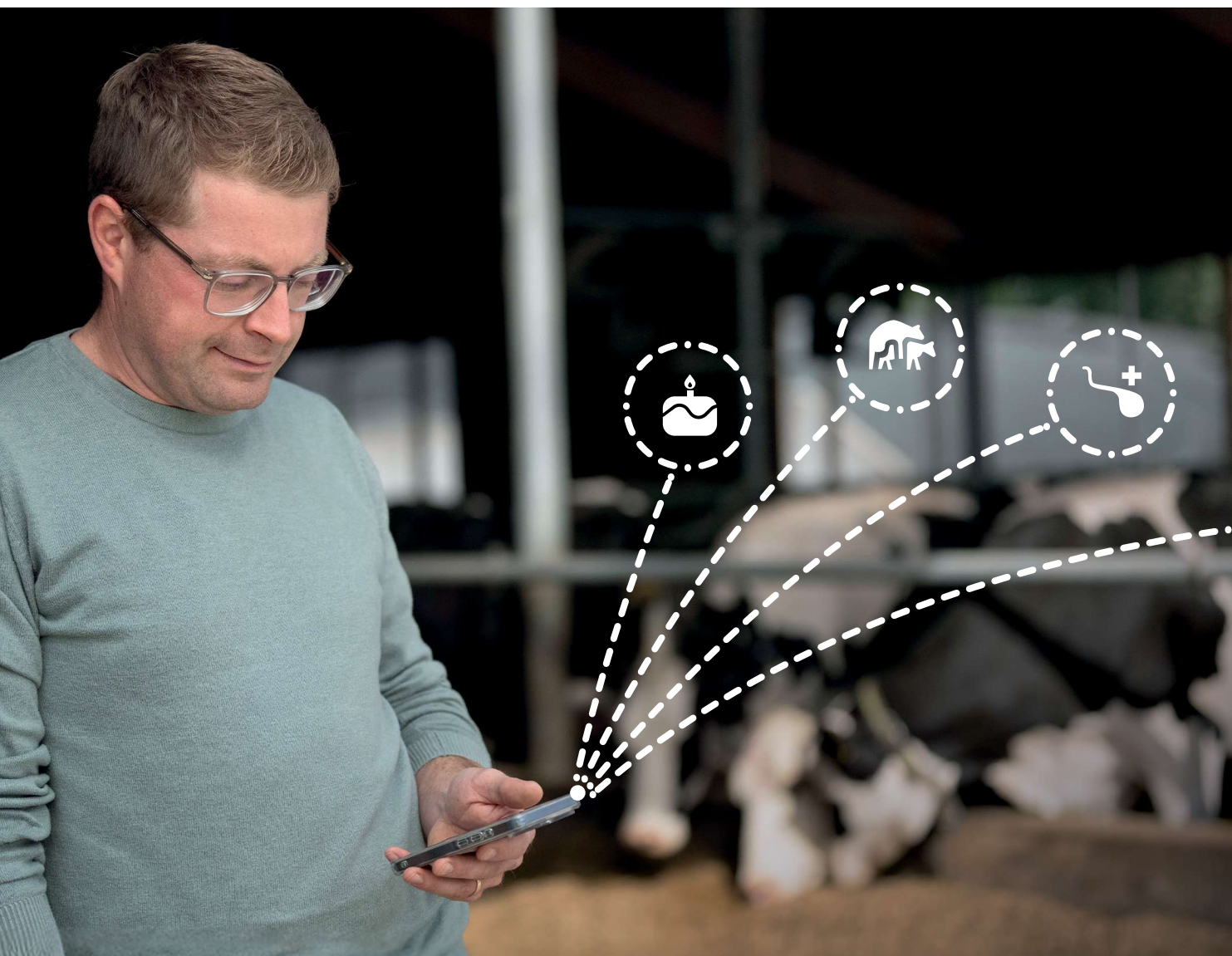


次の泌乳期に及ぼす
周産期管理



生産性に直結する
栄養管理

センスハブ デイリーを使えば、牛のすべてのライフステージを、
24時間体制の“もう一つの目と耳”によって見守られているという安心感を得られます。



常に牛を見守ることはできません。ただしセンスハブとなら可能です。

子牛 & 育成牛

将来の成長を支える最良のスタートを
切るために、生後8週間までの子牛の
管理がとても重要です。

軽症の子牛は一見元気に見えることが多く、
不調が見逃されてしまうことがあります。動き・哺乳・体温の変化を察知することで、早期治療、早期回復に繋がります。¹

50%

の世界中の子牛は、
下痢症や肺炎などの疾病が原因で死亡し
ており、新生子牛が最も脆弱です。²

< 12
カ月齢

なぜモニタリングが必要なのか？

センスハブ デイリーで生後1日目から子牛をモニタリングすることで、疾病の初期兆候を示す子牛に対してアラートが発信されます。これにより以下が可能になります：



検査が必要な
子牛の特定



治療中の子牛の
モニタリング



子牛と育成牛の成長
の最適化

子牛の健康状態を向上させることは、
牛群の長期的なパフォーマンス向上にもつながります。



「センスハブ デイリーを子牛に使用することで、病気の兆候を早期に把握し、深刻化する前の対応が可能になります。さらに、群編成時の管理も、よりスムーズになりました。」

ローラ・フランキ (イタリア)
San Giacomo and Franchi Farm



未経産牛

12ヶ月齢以降の育成牛には、初回授精の目標体重に向け、安定した成長が求められます。反芻発達不良や発情見逃し、疾病発見の遅れは、さまざまな問題を招くおそれがあります：

- ・ 初回受胎の遅延
- ・ 乳量の伸び悩み
- ・ 飼養コストの増加

交配適齢期の育成牛（14～15ヶ月齢）の目標体重は、

成熟体重の **55%** です。³

なぜモニタリングが必要なのか？

育成牛の成長を確認し、最適なタイミングで初回授精できるよう、センサハブ デイリーでは以下の項目をモニタリングできます：



採食
パターン

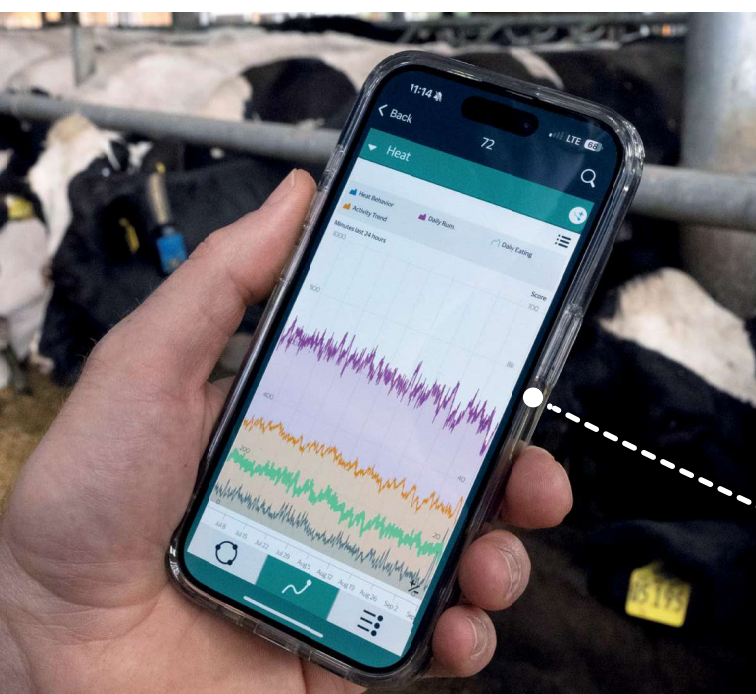
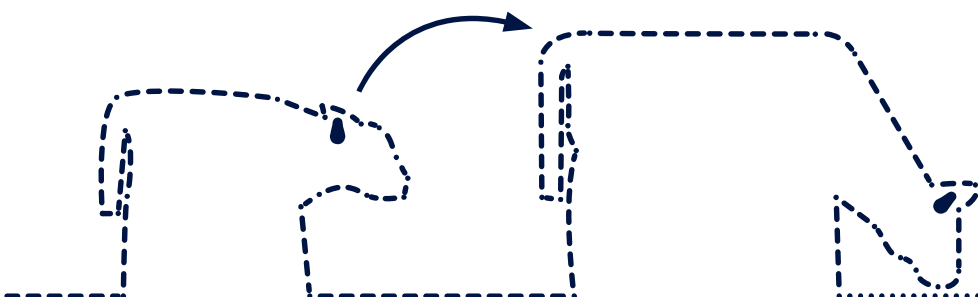


活動量



発情行動

初産分娩月齢を早めることで、乳牛の生涯生産性の向上に貢献できます。



「発情兆候を示さない牛を特定することは重要です。なぜならそのような牛は高泌乳牛であることが多いからです。センサハブを使えば、それがより確実にできます。」

スヴェイン・アルネ・ネールラン
Nærbø, Norway



周産期

分娩前後

3週間

(計6週間)

分娩前後は、疾病にり患するリスクが最も高い時期です：



管理不良は周産期疾病や繁殖性の低下を引き起こし、将来のパフォーマンスに影響を与え、大きな経済的損失につながる可能性があります。⁵

なぜモニタリングが必要なのか？

センスハブ デイリーは分娩前後の活動量、反芻、乳量、乳成分をモニタリングし、潜在的な問題を特定することで早期の対応を可能にします：



妊娠損失を抑制し、繁殖性を改善することで、分娩間隔の短縮に繋がります。⁵

「牛の治療から搾乳群への復帰、採食量回復までの一連の対応を、以前より迅速に行えるようになりました。牛の不調を早期に知らせるアラートにより、損耗の低減にもつながっています。」

ステファン・リチャーズ
Cwrt Malle, South Wales

周産期は乳牛のライフサイクルにおいて最も重要なステージであり、

80% の健康問題
が発生しています。⁴



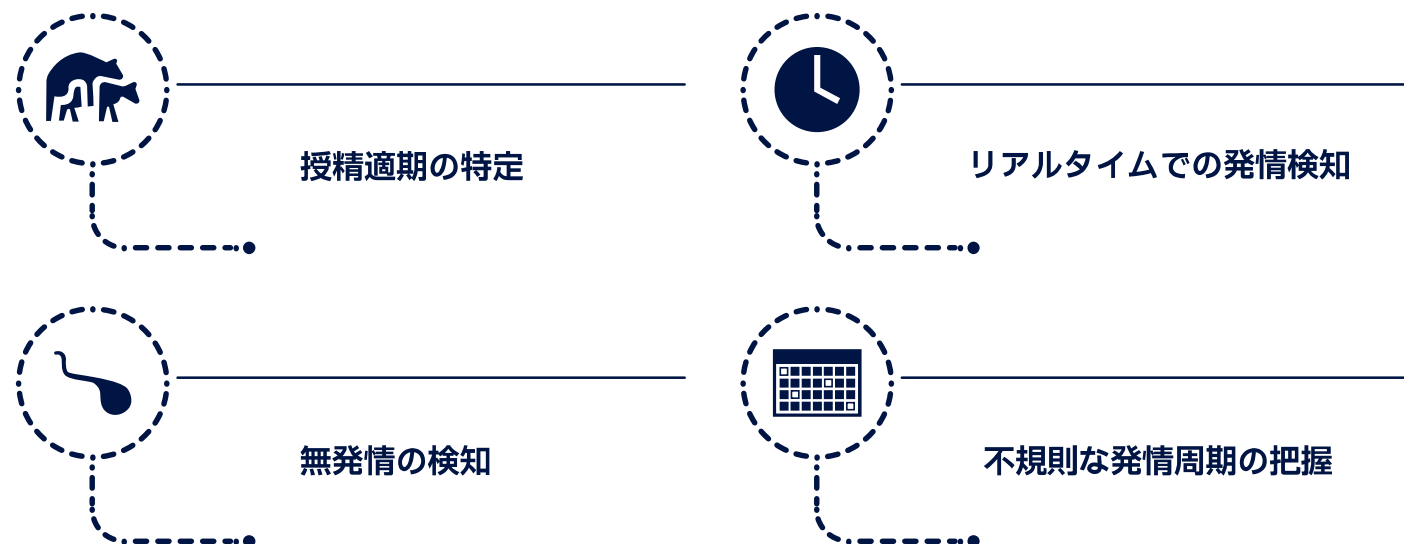
繁殖管理

繁殖管理は、酪農経営における重要な課題です。栄養不良、健康状態の悪化、発情見逃しは受胎率を低下させます。⁶

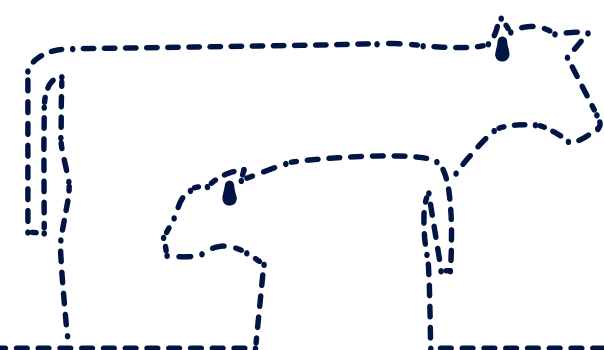
適切な飼料給与、継続的な健康モニタリング、正確な発情検知が、経産牛および未経産牛を適切な時期の繁殖に繋げ、収益性の向上に寄与します。

なぜモニタリングが必要なのか？

センスハブ デイリーは、経験に基づく判断をデータによってより確かなものにします。



これにより、適期に人工授精を可能にし、受胎率を向上させ、繁殖適期に人工授精を可能にし殖損失を低減できます。



「センスハブを導入してから、育成牛の受胎率が大幅に向上し、モニタリング開始からわずか1年で受胎率が87%まで一気に上昇しました。」

パトリック・ヨハンソン
Sala, Sweden



目視の発情発見率は

< 50%

になります。



乳量・乳質モニタリング



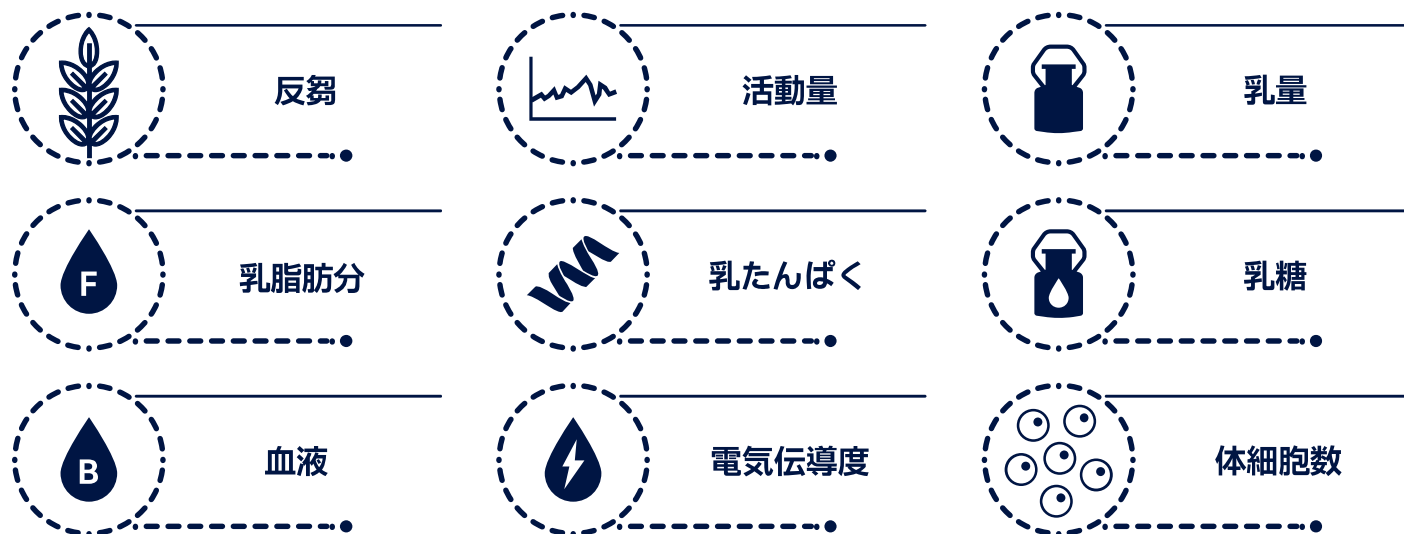
乳生産は栄養、健康、行動の複合的な相互作用に影響されます。

泌乳初期の牛は代謝負荷が高く、乳房炎やケトーシスなどの周産期疾病にかかりやすくなります。これらは、牛の健康に影響を及ぼし、乳生産や収益性を低下させます。

なぜモニタリングが必要なのか？

反芻、活動量、採食量、乳量、乳成分の変化は、臨床症状に先立ってかなり早期に異常を示します。

センスハブ デイリーはリアルタイムの行動モニタリングとミルクモニタリングを組み合わせ、これらの初期兆候を明らかにします。
すべての牛、すべての搾乳、すべての酪農家において、以下の項目を追跡できます：



タイムリーなアラートと搾乳データにより、泌乳期を通じて乳房の健康を守り、良好な乳質と乳量の維持・向上に向けた迅速な対応が可能になります。

SCC
150,000



乾乳牛・淘汰牛管理



パフォーマンスの緩やかな低下や臨床症状として見えづらい不調は、乳収入の減少や廃用率の上昇につながる可能性があります。

これらは泌乳後期に現れることが多く、不適切な乾乳管理は乳房炎のリスクを高めます。

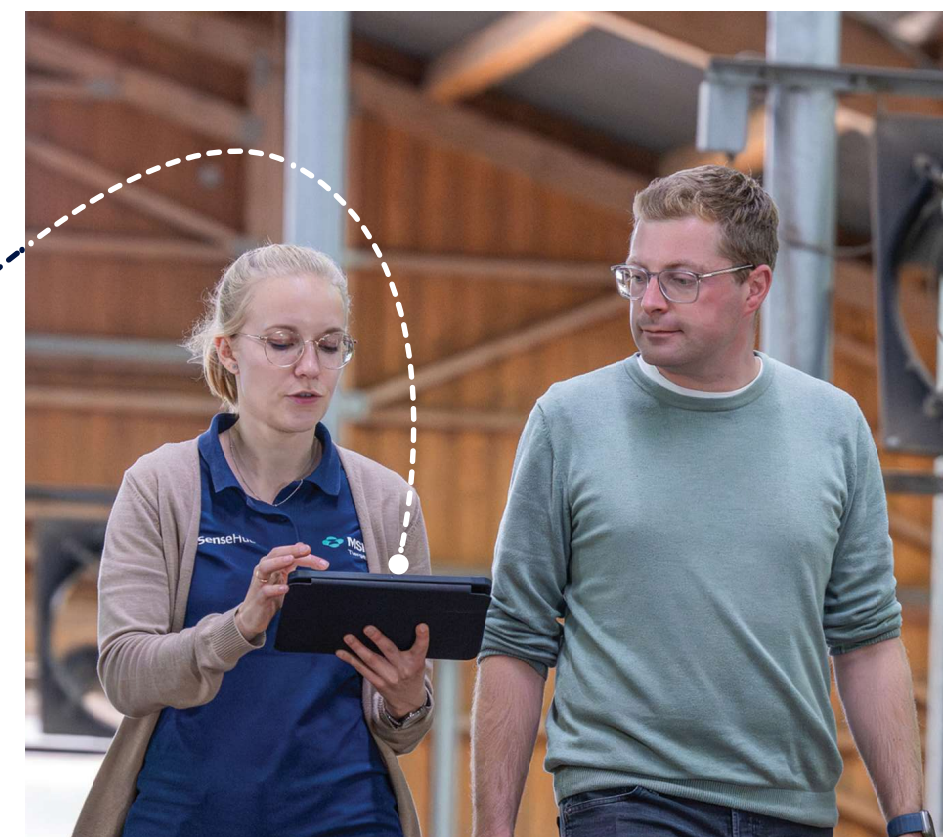
なぜモニタリングが必要なのか？

適切な管理を行うことは、すべての牛が最適な健康状態で次の泌乳期を迎えるために不可欠です。

センスハブ デイリーのライフタイムデータで問題に先手を打つことができます。パフォーマンスや行動の緩やかな変化を察知し、以下の判断に活用できます：



24時間365日牛群をモニタリングすることで、次の泌乳期でも最適な結果を確保できます。



「センスハブの特徴の一つは、淘汰計画を管理しながら牛群全体を正確に把握できることです。これにより、良い牛と悪い牛を見極め、それぞれに最適な製品を選択できるようになりました。」

ジョン・ハンラハン
Kilmallock, Co. Limerick



DAY 1
Health Index
93

生後1日から、 一生涯にわたるモニタリング。

全世界で唯一、生後1日から始められる、牛の一生すべてを
モニタリングできる行動モニタリングシステムです！ (2025年12月時点、当社調べ)

詳しくは、MSDアニマルヘルスの担当者までお問い合わせください。

参考文献

1. Hart, K. (2025) Early Life Care.
2. USDA National Animal Health Monitoring System (NAHMS). (2020). Dairy 2014: Health and Management Practices on U.S. Dairy Operations, 2014. United States Department of Agriculture, Animal and Plant Health Inspection Service (APHIS), Veterinary Services.
3. Laven, R. (2015) Part 8 : Managing heifer fertility. NADIS. <https://www.nadis.org.uk/disease-a-z/cattle/fertility-in-dairy-herds-advanced/part-8-managing-heifer-fertility/>
4. LeBlanc, S. J., Duffield, T. F., Leslie, K. E., Bateman, K. G., Keefe, G. P., Walton, J. S., & Johnson, W. H. (2006). Defining and diagnosing postpartum clinical endometritis and its impact on reproductive performance in dairy cows. Journal of Dairy Science, 85(9), 2223–2236. [https://doi.org/10.3168/jds.S0022-0302\(02\)74302-6](https://doi.org/10.3168/jds.S0022-0302(02)74302-6)
5. Moran Litshitz, D.V.M., Vetmarket R.O.M (2025) Transition Period in Dairy Cows: Challenges, Early Detection and the Role of Monitoring Technology.
6. Reith, S., & Hoy, S. (2018). Review: Behavioral signs of estrus and the potential of fully automated systems for detection of estrus in dairy cattle. Animal, 12(2), 398–407. <https://doi.org/10.1017/S1751731117001975>

センスハブ™
公式情報もCheck

@Sensehub_JapanMSDAH



@Sensehub_Japan



センスハブ公式サイト



本製品は、動物の病気の診断、治療、治癒、予防を目的としたものではありません。動物の病気の診断、治療、治癒、予防については、かかりつけの獣医師にご相談ください。本製品を通じて収集および表示されるデータの精度は、医療機器や科学測定機器のデータの精度と一致することを目的としたものではありません。
JP-SHB-260600001

